

～ 自分の感性で探求し、遊ぶ ～

絵の具と筆、画用紙を置き、やり方の説明はなく、見守りました。

最初は様子がかがっていましたが、誰かが紙に塗り、絵の具を流し始めると、自分のやりたい事を見つけ、どんどん集中し始めました。

紙に筆で塗り、色を混ぜて色の変化に気づきます。
流した絵の具が、滴り落ちるのを見つめています。
床に流れた絵の具を触り、何かを感じています。

言葉少なに見守っていると、子ども達が何かに気づき、発見していることが見えてきます。

途中から澱粉のりを出すと、それを混ぜ、少し指につけて、洗いに行く事をくり返しています。混ぜたものを、紙や床に付け、手や足に塗り始めます。

それぞれが違う事に、違うやり方で集中する静かな時間が流れました。

その姿を、ずっと見ている子もいます。
こちらから誘っても動きません。考えています。
そして、ついに自分で動き出します。絵の具を容器から流し始めました。

集中するタイミングも人それぞれ。考える時間も必要なようです。

やり方も、完成形も決めず、素材と出会う環境を作り、見守ることで子ども達は、それぞれの興味ある事を探求し、発見していきます。

形に残らない表情や行為、画用紙に残った痕跡に、その子が何を楽しんだのか、その人らしさが表現されています。

1人ひとりの興味、探求、表現を止めない為の環境設定を準備し言葉少なく見守ることの大切さを、子ども達が教えてくれました。

